茨城県中部, 瓜連丘陵の第四系泥質層の化学組成。 化石珪藻から見た堆積環境

狛 武* 安藤一男** 宇野沢昭*** 坂本 亨[†]

KOMA, T., ANDO, K., UNOZAWA, A. and SAKAMOTO, T. (1988) Geochemical study on sedimentary environment of Quaternary mudstones of Urizura Hill, Ibaraki Prefecture, Japan. Bull. Geol. Surv. Japan, vol. 39 (9), p. 573-599.

Abstract: The Urizura Hill, situated about 10 km to the north of Mito City, is a flat land elevated about 100 m above sea level, and is composed of the Hikita Formation of middle Pleistocene age, which is fluvial deposits filling the valley along the Kuji River. Four cycles of sedimentation from conglomerate at the base to mud at the top in the formation are distinguished and a succession of the formation can be observed at the southeastern corner of the hill.

Mudstones of the first and the third units of the formation, the thickness of which is 8.4 m and 12.5 m respectively, were sampled and various chemical forms of sulfur and carbon were analysed separately. Total nitrogen, water-soluble chlorine, metal elements and fossil diatoms were also analysed.

Some mud samples from the uppermost part of the first and the third cycles of sedimentation show high sulfur and marine diatom contents suggesting the deposition under marine environment. The muds having much carbonaceous matter show high content of sulfur, even if they were deposited under fresh water condition. The oxidation-reduction condition after deposition is supposed from the chemical forms of sulfur.

Resümee : Die Urizura-Hügelkette etwas mehr als 10 km nördlich der Stadt Mito mit einer Höhe von etwa 100 m über dem Meeresspiegel besteht hauptsächlich aus der Hikita-Formation des mittleren Pleistozäns, und es handelt sich hierbei hauptsächlich um fluviale Ablagerungen, die das alte Flußbett des Kuji-Flusses füllen. Diese Füllung des alten Flußbettes zeigt mindestens vier Zyklen von Konglomerat, Sand und Schlamm, und fast die gesamte Formation von der Basis bis zur Obergrenze kann am großen Zutageliegen an der Kiesausschachtungsstelle im Norden des Hügels an der Südwestseite der Hügelkette gesehen werden.

An diesem Zutageliegen haben die Autoren in Abständen von etwa 5 cm in vertikaler Richtung insgesamt 375 Proben aus der zwischen der ersten und der dritten Ablagerungsschicht (mit Dicken von 8.4 m bzw. 12.5 m) eingeschlossenen zweiten Schicht des von der Hikita-Formation eingeschlossenen pelitischen Gesteins entnommen und den Gesamtschwefelgehalt analysiert. Weiterhin wurden dann für 48 auf der Grundlage der Ergebnisse der Analyse des Gesamtschwefelgehalts entnommene Proben Untersuchungen in Bezug auf die chemische Formen der Schwefelmenge und die Kohlenstoffmenge, waserlösliches Salz, Metall-elemente und fossile Diatome durchgeführt.

Wenn der Einfluß von Salzwasser angenommen wird, so zeigen normalerweise in einer Reduktionsumwelt die auf der Grundlage der Gesamtschwefelmenge geschätzte Ablagerungsumwelt und die auf der Grundlage der fossilen Diatome

^{*} 技術部 ** 埼玉県立豊岡高等学校 *** 環境地質部 † 元地質部(現 名古屋大学)

geschätzte Umwelt eine gute Übereinstimmung. Für den Ausnahmefall des Einschlusses von Kohlenstoffmaterialien in pelitischem Gestein ist die Schwefelmenge in Schichten mit der Hervorbringung von Diatomen mit Süßwassercharakteristik größer, aber es wurde gefunden, daß in diesem Fall die Metallelemente einen Index für die Umweltbeurteilung geben. Die chemische Formen der Schwefels erlaubt eine Erfassung der Redox-Umwelt nach der Ablagerung. Unter Berücksichtigung der Analyseergebnisse für anderes als das oben erwähnte pelitische Gestein des zweiten Ablagerungszyklus kann angenommen werden, daß mindestens ein Teil des pelitischen Gesteins von ersten Zyklus bis zum obersten Teil des dritten Zyklus der Hikita-Formation unter dem Einfluß von Salzwasser gebildet worden ist.

Es kann angenommen werden, daß bei der Hikita-Formation das Flußtal allmählich aufgefüllt wurde, während die Umgebung wiederholt zwischen einer Flußumgebung (Ablagerung von Konglomerat und Sand) und einer Flußmündungsumgebung (Ablagerung pelitischer Schichten) wechselte.

1. まえがき

瓜連丘陵は,水戸市の北方10数kmに位置し,那珂 川と久慈川に挟まれた北北西-南南東に伸びる海抜100 m 前後の小丘陵である(第1図).この丘陵は,新第三 系を基盤とする,主として更新世の古久慈川河谷の埋積 層一引田層一によって構成されている(坂本・宇野沢, 1976)(第1表).

丘陵南西縁の大宮町坂地の北方に最近大規模な砂利採 り場が出現し,全層厚 60 m 以上に達する引田層の全体 が同一露頭で連続的に観察できるようになった.その結 果,引田層が少なくとも四回の堆積サイクルを示す,砂 礫-砂層を主とする地層であることが判明した.引田層の河川堆積物としての様相については、牧野ほか(1982)の記述があり、砂礫-砂層の堆積状況については、坂本・正井(1982)による写真を主とした簡単な紹介がある.また、泥質層については、狛ほか(1983 b)によって硫黄量と微化石の予察的な分析が行われ、堆積環境について若干の考察がなされている.

今回の研究は、引田層の堆積環境の変遷をより詳細に 明らかにすると同時に、堆積層中の硫黄量にもとづく堆 積環境推定法の有効性をさらに詳しく検討することを目 的としている。そのために引田層中に挟まれる泥質層に ついて鉛直方向に連続的な試料採取を行い、その全試料



第1図 瓜連丘陵の位置

-574-

| | | 関 | 東ローム | ム層 |
|---|-----|---|-------|------------|
| | 後期 | 額 | 田(段丘) |)礫層 |
| 更 | | 見 | 和 | 層 |
| | | 粟 | 河 軽 石 | 層 |
| 新 | | 所 | 貫礫 | 層 |
| | 中期 | 引 | 田 | 層 (河谷埋積層) |
| 世 | | 新 | 町 礫 | 層)(冊沙段丘磁層) |
| | | 古 | 徳礫 | 層 |
| | 前期 | | | |
| 新 | 第三紀 | 基 | | 盤(中新統泥岩) |

第1表 茨城県中部,瓜連丘陵付近の地質層序の概要

(375 個)の硫黄量の分析を行った.ついで全硫黄分析 結果を考慮して選定した一部試料(48 個)について形 態別硫黄,形態別炭素,金属元素及び化石珪藻の分析を 行った.このように地球化学的指標成分と化石珪藻を多 数の同一試料について分析し,詳細に検討された研究は 今までに例のないものである.

2. 引田層の地質学的位置付け

引田層は、瓜連丘陵の主体を構成する更新世の古久慈 川の河谷埋積層である.第2図の模式断面図に示したよ うに、本層は新第三系(中新統)の泥岩を削ってつくら れた河谷を埋めたもので、下位には古徳礫層、新町礫層 と呼ばれる埋没段丘礫層があり、上位には所貫礫層と粟河 軽石層が発達する.

今回試料採取を行った露頭の柱状図を第3図に示す. この柱状図は、同一砂利採り場について狛ほか(1983b) に掲載した柱状図と細かな点で食い違っているが、これ は引田層が側方変化の激しい地層であるため、採掘の進 行に伴って次々と露頭状況を変えていった結果にほかな らない. 例えば, 第3図に示した第Ⅱ堆積サイクル上半 部の泥質層は, 今回の試料採取をした露頭では, 全く失 われていた. 第3図に示してあるのは, 前回の露頭調査 の結果に新たに見られた地層を加えたものである.

第3図に示したように、砂利採り場の引田層は少なく とも四回の堆積サイクルを示している.このうち最上位 のもの(第Ⅳ)はここでは砂層のみが見られるが、ほか の堆積サイクル(第I-第Ⅲ)では、上方へ向かって礫 (砂)→砂→シルトという規則的な層相変化を示している. 今回の試料採取は、第Iと第Ⅲ堆積サイクルの泥質層に ついて行った.

引田層の地質時代に関しては、それが東茨城台地を構 成して広く発達する見和層(最終間氷期の海進に伴う海 成堆積物,海抜50mから30mの台地をつくる)より 古く(小池,1984;坂本,1986),海抜100m前後の丘 陵をつくっており,かつ,構造的変形を受けていない点 から漠然と更新世中期と予測されるが、年代を積極的に 指示する証拠は今のところない.

粟河軽石層については、今回の試料採集と同時に、フ ィッショントラック年代測定用の試料を採取して、年代 測定を試みたが、外来性の異種年代ジルコンの混入が多 く、確定的な結果を得ることはできず、「粟河軽石層の 年代は、1.1±0.2 Ma,ないしそれより若い」といえ るのみであった.

3. 試料採取

今回,全硫黄量および珪藻の分析に供した試料は,引 田層の主として泥質層から採取した.採取範囲は,第3 図に示したように,第II 堆積サイクルの泥質層について は全層厚 12.5 m のうち 10.5 m 分(85%)に,第I 堆 積サイクルの泥質部については,全層厚 8.4 m の全体 に及んでいる.前者の試料が U-1-218(うち U-43-50





地質調查所月報(第39巻第9号)



第3図 瓜連丘陵引田層の試料採取位置と露頭柱状

は欠),後者の試料が L-1-165 であり,総数は 375 個に 達した.

これらの試料はすべて、できるだけ鉛直な壁面を持つ トレンチを露頭に切り、新鮮な部分を露出させてから、 原則として厚さ5cm づつ鉛直方向に連続的に採取した ものである.ただし5cm の範囲内で層相が変わった時 は、上下の両層相にまたがって試料採取した場合(U-22, U-97)や、両層相を区別して別々に採取した場合 (U-54 と U-55, U-57 と U-58)、及び一方の層相のみ から採取した場合(U-53, 89, 98, 103, 106)がある. 以上のような採取試料と層相の対応を、付表 A-1 に示 した.

以上の試料について、全硫黄量に関しては 375 個全部

を分析した. 珪藻, その他の分析成分については全硫黄 の分析結果にもとづき, 全硫黄含量が大きく変化する境 の上下で 2-10 個間隔に1個, 全硫黄量が安定した部分 のうち代表的な試料については,約20 個間隔に1個の 割合で試料を選んで分析した. その結果第 I 堆積サイク ルでは 5-10 個間隔,第 II 堆積サイクルでは全硫黄量の 変化の少ない部分で20 個に1個, 全硫黄の変化に富む 部分で 2-3 個に1個の計 48 個になった.

なお,第Ⅱ堆積サイクルの泥質部については,狛ほか (1983 b)に述べた試料(第3図-28,29に相当する) を利用した.

4. 分析法

4.1 化学分析

硫黄・水溶性塩素

全硫黄(total S)は高周波誘導加熱燃焼法と電量滴 定法を組み合わせた方法(KAJIYAMA and HOSHINO, 1971)を用いた.内径 2 cm,高さ 2.5 cmのアルミナ 製試料ルツボに,試料 0.1-0.5g(試料の硫黄含量によって増減した)を秤り採り,燃焼材として鉄粉 1.0g, および助燃剤として粒状スズ 2-3 個(約 0.2g)を加え, 加熱コイルを巻いた石英管内に挿入し,酸素を送りなが ら6分間加熱する.炉内の温度は発生する高周波誘導電 流を利用するので数秒間でほぼ 1600°Cの高温に達し, 鉄粉・スズを溶解する.その際,試料の分解が起こり硫 黄分は二酸化硫黄などの酸化物となる.2% 硫酸ナトリ ウムと過酸化水素からなる吸収液に捕集された硫黄酸化 物を電量法で測定した.用いた装置は,国際電子工業株 式会社製「クーロマチック S-VK-3 B 型」である(狛, 1987).

形態別硫黄

水抽出硫酸塩硫黄 (SO₄²⁻S:H₂O),水溶性塩素 (Cl⁻: H₂O) は,試料 1g を精秤して,30 ml の秤量ビンに 入れ,10 ml の水を加え,超音波洗浄装置で1時間抽出 した.抽出後,遠心分離機で抽出液と固形物を分離する. 抽出液を用いて水抽出硫酸塩硫黄,水溶性塩素を液体ク ロマトグラフィー法と比色法を組み合わせた硫酸イオン 分析機(塩素イオンも同時定量できる)を用いて測定し た.用いた装置は盛進製薬株式会社製の硫酸イオン分析 機である.

塩酸抽出硫酸塩硫黄 (SO² S:0.12 N-HCl) は, 試料 0.2から 1.0gを精秤し, 100 ml のトールビーカーに いれ, 0.12 N-HCl または 1.2 N-HCl, 10 ml を加え, 時計皿でフタをして, 1 時間沸騰水中に浸し抽出する. 抽出後, 50 ml のメスフラスコに入れ定容とし遠心分離 機で抽出液と固形物に分離する. 抽出液は硫酸イオン分 析機を用いて測定した.

二硫化鉄硫黄 (FeS_2 -S)^{*1} は,塩酸抽出固形残渣を 乾燥機で 100[°] で乾燥した後,試料 0.1-0.5g を精秤 し,硫黄分析機で測定した.

一硫化鉄硫黄 (FeS-S)*2 は、全硫黄から硫酸塩硫黄 と二硫化鉄硫黄の合量を差し引いて求めた.

炭素・窒素

全炭素 (total C), 全窒素 (total N) は, 試料 50 mg を精秤し, 白金ボートに入れ, ヘリウムキャリアガ スとして酸素を含む気流中で燃焼させ, 二酸化炭素とし て熱伝導度検出機で測定した. 用いた装置は, 柳本製作 所「C・H・N-MT-2 型」である.

有機炭素(org. C)は、二硫化鉄硫黄の測定に用い た試料 50 mg を精秤し、全炭素と同様な方法で測定し た.

非有機炭素(Inorg. C)は、全炭素から有機炭素を 差し引いて求めた。

金属元素

水抽出鉄 (Fe:H₂O), 0.12 N-塩酸抽出鉄 (Fe:0.12 N-HCl), 1.2 N-塩酸抽出鉄 (Fe:1.2 N-HCl) は, 水抽出硫酸塩硫黄, 0.12 N-塩酸抽出硫酸塩硫黄, 1.2 N-塩酸抽出硫酸塩硫黄の測定時に得られた水抽出液 2 ml または 50 ml の水で定容とした塩酸抽出液 5 ml を, 50 ml のメスフラスコに分取し,水で定容とした後の溶 液 2 ml を用いた. この試料を別に 25 ml のメスフラ スコ中に緩衝液 (酢酸ナトリウム 68.09 g を 500 ml の 水に溶かし,氷酢酸 28.8 ml を加え,水で全量を 1 l とする) 3 ml と o-フェナントロリン溶液 (o-フェナ ントロリン塩酸塩 0.24 g を水 200 ml に溶かす) 2 ml を入れ用意してあるフラスコ内に入れ,蒸留水で定容と する.約 20 分間放置後,吸光光度法を用い,500 nm 付近の波長で比色する (杉崎, 1981).

水抽出マンガン (Mn: H₂O), カルシウム, マグネ シウム, カリウム, ナトリウム及び 0.12 N-塩酸抽出マ ンガン (Mn: 0.12 N-HCl), カルシウム, マグネシウ ム, カリウム, ナトリウム, 1.2 N-塩酸抽出マンガン (1.2 N: HCl), カルシウム, マグネシウム, カリウム, ナトリウムはそれぞれ, 水抽出硫酸塩硫黄, 0.12 N-塩 酸抽出硫酸塩硫黄, 1.2 N-塩酸抽出硫酸塩硫黄の測定 時に得られた, 水抽出液, 0.12 N-塩酸抽出液を用いて 原子吸光分析機で測定した.

全鉄 (total Fe), 全マンガン, 全カルシウム, 全マ グネシウム, 全カリウム, 全ナトリウムは試料 0.1gを 精秤し, 100 ml の白金皿に入れ, 過塩素酸 5 ml, 硝酸 2 ml, ふっ化水素酸 10 ml を加え, 砂皿上で加熱分解 した後, 0.3 から 0.5 N-塩酸溶液としてストロンチウ ム溶液を加え原子吸光分析機で測定した. 使用した原子 吸光分析機は日本ジャーレル・アッシュ社製 AA-8500 型である (寺島, 1970).

見掛比重(s'),容量含水率(r')

見掛比重及び容量含水率は試料 1-2g をあらかじめ

^{*1:} 二硫化鉄硫黄と炭素結合硫黄の合量(FeS2-S+C bond-S)と する. *2: 一硫化鉄硫黄と元素硫黄の合量(FeS-S+S⁰)とする.

| | 試料 試料名 地層 | | ш | +13 | | 硫 | 黄 | % | | 炭 | 素 % | 6 | 全窒素 | 有機炭素 | 水溶性 | 塩 酸 |
|----------|-----------|--------|------------|------------------|--------------|---------------|-----------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|----------------|-----------------|
| 試科 番号 | 武科名 | 地眉名 | 石 | 竹田 | 水抽出 硫酸塩硫黄 | 塩酸抽出 硫酸塩硫黄 | 一硫化鉄硫黄 +元素硫黄 | 二硫化鉄硫黄 +炭素結合硫黄 | 全硫黄 | 非有機炭素 | 有機炭素 | 全炭素 | % | 全窒素 | 塩素 <i>%</i> | 溶解鉄 <i>%</i> |
| 1 | U— 2 | | 暗灰色 | 粘土質 シルト | 0.216 | 0.089 | 0.362 | 1.331 | 1.998 | 0.245 | 1.261 | 1.506 | 0.073 | 17.3 | 0.002 | 0.348 |
| 2 | U- 4 | | " | " | 0.274 | 0.267 | 0.345 | 1.474 | 2.360 | 0.245 | 1.105 | 1.350 | 0.063 | 17.5 | 0.002 | 0.433 |
| 3 | U- 6 | | " | " | 0.626 | 0.349 | 0.843 | 2.466 | 4.284 | 0.295 | 1.254 | 1.549 | 0.083 | 15.1 | 0.002 | 0.650 |
| 4 | U— 8 | | " | " | 0.522 | 0.257 | 0.522 | 1.739 | 3.040 | 0.298 | 1.179 | 1.477 | 0.072 | 16.4 | 0.002 | 0.544 |
| 5 | U-10 | | " | " | 0.335 | 0.242 | 0.358 | 1.266 | 2.201 | 0.243 | 0.937 | 1.180 | 0.056 | 16.7 | 0.002 | 0.433 |
| 6 | U—13 | | " | <i>″</i> 軽石混り | 0.591 | 0.572 | 0.781 | 1.946 | 3.890 | — | | 1.782 | _ | | 0.002 | 1.438 |
| 7 | U—16 | 引 | 帯 褐 暗灰色 | シルト 炭質物多い | 0.706 | 0.490 | 0.610 | 2.779 | 4.585 | 0.020 | 2.165 | 2.181 | 0.093 | 23.3 | 0.003 | 0.831 |
| 8 | U—19 | 田 | " | " | 0.628 | 0.246 | 0.278 | 1.699 | 2.851 | 0.564 | 2.604 | 3.168 | 0.070 | 37.2 | 0.002 | 0.675 |
| 9 | U-22 | 層 | 灰色 | シルト | 0.230 | 0.280 | 0.084 | 1.040 | 1.634 | 0.377 | 2.094 | 2.471 | 0.123 | 17.0 | 0.005 | 0.479 |
| 10 | U—23 | 笛 | " | " | 0.053 | 0.024 | 0.095 | 0.351 | 0.523 | 0.199 | 1.113 | 1.312 | 0.084 | 13.3 | 0.002 | 0.243 |
| 11 | U—25 | ж Ш | " | シルト質 微細砂 | 0.018 | 0.006 | 0.046 | 0.169 | 0.239 | 0.104 | 0.633 | 0.737 | 0.043 | 14.7 | 0.001 | 0.199 |
| 12 | U—27 | 堆 | " | 細砂 | 0.057 | 0.047 | 0.074 | 0.390 | 0.568 | 0.108 | 0.688 | 0.796 | 0.040 | 17.2 | 0.001 | 0.241 |
| 13 | U—29 | 積 | 灰~ 灰褐色 | " | 0.019 | 0.009 | 0.026 | 0.131 | 0.185 | 0.067 | 0.457 | 0.524 | 0.045 | 10.2 | 0.002 | 0.148 |
| 14 | U-32 | サ | " | " | 0.015 | 0.021 | 0.029 | 0.187 | 0.252 | 0.035 | 0.476 | 0.511 | 0.033 | 14.4 | 0.002 | 0.175 |
| 15 | U-35 | 1 | " | " | 0.011 | 0.002 | 0.009 | 0.122 | 0.144 | 0.063 | 0.520 | 0.583 | 0.036 | 14.4 | 0.001 | 0.152 |
| 16 | U—38 | ク | 灰 色 | 粘土質 シルト | 0.018 | 0.005 | 0.010 | 0.131 | 0.164 | 0.107 | 0.613 | 0.720 | 0.037 | 16.6 | 0.002 | 0.196 |
| 17 | U-41 | ル | " | " | 0.005 | 0.002 | 0.004 | 0.080 | 0.091 | 0.200 | 0.391 | 0.591 | 0.044 | 8.9 | 0.001 | 0.163 |
| 18 | U-52 | | 灰褐色 | シルト | 0.000 | 0.002 | 0.019 | 0.061 | 0.082 | 0.177 | 0.294 | 0.471 | 0.038 | 7.7 | 0.001 | 0.028 |
| 19 | U-54 | | " | " | 0.000 | 0.002 | 0.000 | 0.021 | 0.023 | 0.169 | 0.296 | 0.465 | 0.032 | 9.3 | 0.002 | 0.021 |
| 20 | U-60 | | " | " | 0.001 | 0.002 | 0.006 | 0.071 | 0.080 | 0.172 | 0.312 | 0.484 | 0.032 | 9.8 | 0.003 | 0.024 |
| 21 | U80 | | 黄灰色 | 細砂 | 0.000 | 0.002 | 0.016 | 0.079 | 0.097 | 0.164 | 0.305 | 0.469 | 0.045 | 6.8 | 0.003 | 0.048 |
| 22 | U-100 | | " | " | 0.000 | 0.002 | 0.007 | 0.088 | 0.097 | 0.148 | 0.314 | 0.462 | 0.033 | 9.5 | 0.002 | 0.035 |
| 23 | U-120 | | " | 砂 質 シルト | 0.000 | 0.007 | 0.012 | 0.087 | 0.106 | 0.159 | 0.320 | 0.479 | 0.032 | 10.0 | 0.004 | 0.030 |
| 24 | U-140 | | 淡褐色 | 細砂 | 0.000 | 0.004 | 0.004 | 0.078 | 0.086 | 0.161 | 0.316 | 0.477 | 0.034 | 9.3 | 0.001 | 0.035 |
| 25 | U-160 | | 灰褐色 | 砂 質 シルト | 0.000 | 0.002 | 0.015 | 0.081 | 0.098 | 0.175 | 0.304 | 0.479 | 0.031 | 9.8 | 0.001 | 0.043 |

表2表 瓜連丘陵の引田層における泥質層の硫黄,炭素,窒素,塩素,鉄の分析結果

- 578 --

、質調査所月報(第39巻)

拇

39巻第9号)

| | 試料 試料名 地層 | | ш | | | 硫 | 黄 | % | | 炭 | 素 9 | 6 | 全窒素 | 有機炭素 | 水溶性 | 塩酸 |
|----------|-----------|--------|-------------|-------------|--------------|---------------|-----------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|----------------|----------|
| 試料 番号 | 試料名 | 地僧名 | 石 | 伯 | 水抽出 硫酸塩硫黄 | 塩酸抽出 硫酸塩硫酸 | 一硫化鉄硫黄 +元素硫黄 | 二硫化鉄硫黄 +炭素結合硫黄 | 全硫黄 | 非有機炭素 | 有機炭素 | 全炭素 | % | 全窒素 | 塩素 <i>%</i> | 溶解鉄 % |
| 26 | U-180 | | 黄褐色 | シルト | 0.000 | 0.002 | 0.014 | 0.083 | 0.099 | 0.185 | 0.311 | 0.496 | 0.032 | 9.7 | 0.001 | 0.023 |
| 27 | U-200 | | " | " | 0.000 | 0.002 | 0.014 | 0.092 | 0.108 | 0.184 | 0.304 | 0.488 | 0.035 | 8.7 | 0.000 | 0.024 |
| 28 | U-218 | | 灰褐色 | 細砂 | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.074 | 0.075 | 0.171 | 0.309 | 0.480 | 0.034 | 9.1 | 0.002 | 0.038 |
| 29 | L-8 | | 黄灰色 | シルト | 0.000 | 0.001 | 0.000 | 0.090 | 0.091 | 0.188 | 0.316 | 0.504 | 0.031 | 10.2 | 0.000 | 0.023 |
| 30 | L-18 | | " | " | 0.000 | 0.002 | 0.001 | 0.073 | 0.076 | 0.191 | 0.307 | 0.498 | 0.036 | 8.5 | 0.002 | 0.024 |
| 31 | L-25 | | " | " | 0.000 | 0.001 | 0.029 | 0.168 | 0.198 | 0.229 | 0.303 | 0.532 | 0.036 | 8.4 | 0.001 | 0.024 |
| 32 | L-34 | | 黄灰~ 暗褐灰的 | 五 ″ | 0.001 | 0.000 | 0.010 | 0.179 | 0.190 | 0.204 | 0.333 | 0.537 | 0.037 | 9.0 | 0.001 | 0.028 |
| 33 | L-45 | 弓(| 暗灰~ 暗青灰食 | 五, ″ | 0.004 | 0.000 | 0.000 | 0.062 | 0.066 | 0.210 | 0.385 | 0.595 | 0.037 | 10.4 | 0.002 | 0.140 |
| 34 | L-52 | 田 | 暗灰色 | 砂 質 シルト | 0.032 | 0.038 | 0.030 | 0.660 | 0.760 | 0.188 | 0.339 | 0.527 | 0.047 | 7.2 | 0.002 | 0.228 |
| 35 | L-55 | 層 | 黒灰色 | シルト質 細 砂 | 0.011 | 0.012 | 0.013 | 0.141 | 0.177 | 0.223 | 0.373 | 0.596 | 0.039 | 9.6 | 0.002 | 0.430 |
| 36 | L-63 | 第 | 暗灰色 | シルト | 0.017 | 0.004 | 0.007 | 0.097 | 0.125 | 0.075 | 0.613 | 0.688 | 0.037 | 16.6 | 0.002 | 0.185 |
| 37 | L-75 | I | 淡灰褐(| 鱼 火山灰 | 0.058 | 0.039 | 0.110 | 0.378 | 0.585 | 0.361 | 0.474 | 0.835 | 0.054 | 8.8 | 0.001 | 0.269 |
| 38 | L-76 | 堆 | 暗灰色 | シルト | 0.011 | 0.030 | 0.000 | 0.104 | 0.145 | 0.191 | 0.711 | 0.902 | 0.056 | 12.7 | 0.001 | 0.226 |
| 39 | L-85 | 積 | " | " | 0.009 | 0.009 | 0.003 | 0.282 | 0.303 | 0.317 | 1.004 | 1.321 | 0.058 | 17.3 | 0.001 | 0.388 |
| 40 | L-95 | サ | " | " | 0.093 | 0.111 | 0.146 | 1.054 | 1.404 | 0.276 | 0.648 | 0.924 | 0.077 | 8.4 | 0.002 | 0.463 |
| 41 | L-96 | 1 | " | " | 0.011 | 0.006 | 0.011 | 0.261 | 0.289 | 3.232 | 0.747 | 3.979 | 0.059 | 12.7 | 0.001 | 1.017 |
| 42 | L104 | л | 黒灰色 | " | 0.010 | 0.010 | 0.017 | 0.223 | 0.260 | 0.331 | 0.910 | 1.241 | 0.074 | 12.3 | 0.001 | 0.441 |
| 43 | L-116 | n N | 暗灰色 | 亜炭質 シルト | 0.015 | 0.008 | 0.033 | 0.190 | 0.246 | 0.305 | 0.762 | 1.067 | 0.076 | 10.0 | 0.002 | 0.337 |
| 44 | L-130 | | チョコレ | レート色 〃 | 0.017 | 0.002 | 0.030 | 0.073 | 0.122 | 0.321 | 0.705 | 1.026 | 0.075 | 9.4 | 0.001 | 0.324 |
| 45 | L-144 | | 青黒 灰白色 | 粘土質 シルト | 0.009 | 0.010 | 0.002 | 0.356 | 0.377 | 0.257 | 0.624 | 0.881 | 0.083 | 7.5 | 0.000 | 0.311 |
| 46 | L-152 | | 暗灰~ 灰白色 | " | 0.015 | 0.000 | 0.001 | 0.212 | 0.228 | 1.057 | 0.654 | 1.711 | 0.051 | 12.8 | 0.000 | 1.057 |
| 47 | L-158 | | チョコ レート色 | 亜炭質 シルト | 0.134 | 0.089 | 0.051 | 1.189 | 1.463 | 0.206 | 0.544 | 0.750 | 0.052 | 10.5 | 0.000 | 0.231 |
| 48 | L—162 | | 黄灰色 | 細砂 | 0.006 | 0.096 | 0.008 | 0.146 | 0.256 | 0.380 | 0.931 | 1.311 | 0.041 | 22.7 | 0.000 | 0.209 |

-- 579 ---

| | | | 硫 | 黄 % | 5 | |
|------|------------------|--------------------|----------------------|-----------------|-------------------|-------------|
| | | 水 抽 出 硫 酸 塩 硫 黄 | 塩 酸 抽 出 硫 酸 塩 硫 黄 | 一硫化鉄硫黄 +元素硫黄 | 二硫化鉄硫黄 +炭素結合硫黄 | 全硫黄 |
| 第Ⅲ堆積 | 範囲 | 0.000-0.706 | 0.001-0.570 | 0.000-0.843 | 0.021 - 2.779 | 0.023-4.585 |
| サイクル | 平均值 | 0.154 | 0.105 | 0.141 | 0.577 | 1.070 |
| (28) | 全硫黄との 相 関 係 数 | 0.98 | 0.95 | 0.96 | 1.00 | _ |
| 第I堆積 | 範囲 | 0.000-0.134 | 0.000-0.096 | 0.000-0.146 | 0.062-1.189 | 0.066-1.463 |
| サイクル | 平 均 值 | 0.023 | 0.023 | 0.025 | 0.297 | 0.368 |
| (20) | 全硫黄との 相関係数 | 0.94 | 0.80 | 0.74 | 0.99 | _ |

第3表瓜連丘陵の引田層における泥質層

水を満たし秤量(W_0)及び秤量してある秤量ビン(W) に入れ精秤し(W_1),次に,この秤量ビンに水を満たし て秤量(W_2)する.この際試料の表面に気泡を残さな いようにする.ついでこれを容器ごと100°C前後に保温 してある乾燥機に入れ,沸騰させないように水分を蒸発 させ,その後,105°Cで2-4時間,恒量となるまで乾燥 し秤量(W_3)する.計算は次の式による.(金原ほか, 1958)

> 見掛比重(s') = $\frac{W_1 - W}{(W_0 + W_1) - (W + W_2)}$ 容積含水率(r') = $\frac{W_1 - W_3}{(W_0 + W_1) - (W + W_2)}$

4.2 珪藻分析

試料 1g を試験管に取り, 30% 過酸化水素水を約5 ml 加え煮沸し、試料を細粒化する. これに水を加えて 十分攪拌した後,30秒ほど静置する。急速に沈降した 小石,砂などを除く.残りの試料に濃塩酸約5mlを加 えて、約10分間煮沸する.冷却した後、遠心分離機を 用いて数回水洗し、微細な粘土粒子を取り除く、濃硝酸 を用いて、濃塩酸と同様の処理をする.次に、濃硫酸で 同様に煮沸した後、硝酸カリウム少量を加えて脱色する. 10回ほど水洗後,蒸留水を加え攪拌,約1昼夜静置す る. 上澄み液を捨て, 残った試料を2枚のカバーガラス 上に散布し、熱したアスベスト付き金網上で十分乾燥す る. プルーラックスで封入し,永久プレパラートにする. 2枚のプレパラート中に含まれている珪藻殻を計数,同 定する. 同定は HENDEY (1958), HUSTEDT (1930), PATRICK and REIMER (1966; 1975), 安藤 · 南雲(1983) によった.

5. 分析結果

375 個の試料の全硫黄量と48 個の珪藻の分析結果を

付表 A-1 に示した.その他,48 試料の硫黄,炭素の形 態別組成及び全窒素,水溶性塩素,酸溶解鉄の分析結果 を第2表に,分布範囲と平均値を第3表に示した.金属 元素量の分布範囲と平均値を第4表に示した.

5.1 化学成分

硫黄

総数 375 個の泥質堆積物の全硫黄量の範囲は 0.015 (L-54)-4.585 (L-16) % にわたり,平均値は 0.332% である.

第1堆積サイクルの全硫黄量(165個)の範囲は 0.066-1.463% で,平均は 0.368% である(第4図).

この堆積サイクルは全硫黄含量から見て下部から上部 に大きく3つのグループに分けられる(第5図).

第1 グループは、試料 L-162 から試料 L-156 までで、 全硫黄は試料 L-158 を頂点とした大きなピークを形成 している.第2 グループは、試料 L-151 から試料 L-64 までで、所々に1.0%前後のものが見られるが、全硫黄 量の範囲は0.1-0.5% にわたる.第3 グループは、試料 L-63 から試料 L-1 までで、上下両端で少なく、全硫黄 量は0.15 から0.2% の平頂な山型を示す.

第Ⅲ堆積サイクルの全硫黄量(210個)の範囲は 0.023-4.589%,平均は 1.070% である(第6図). この堆積サ イクルも全硫黄含量から見て下から上に,2つのグルー プに分けられる(第7図).1つは試料 U-218 から試料 U-28 までで,全硫黄がほぼ 0.1% 前後の量を示す.他 のグループは,試料 U-28 から試料 U-1 までで,全硫 黄量は試料 U-16 を頂点とする台状の山形をつくる.

なお,第Ⅱ堆積サイクルからは,今回は試料を採取し ていないが,かつてシルト層の下部から採取した2個の 試料では,全硫黄量0.597,0.249%を示し,海水の進 入が認められる(狛ほか,1983b).

水抽出硫酸塩硫黄は、第 I 堆積サイクルで含量範囲

| 非有機炭素 | 炭 素 % 有機炭素 | 全炭素 | 全窒素 % | 有機炭素 全 窒素 | 水溶性塩素 <i>%</i> | 塩酸溶解鉄 % |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|-------------------|-------------|
| 0.020-0.564 | 0.294 - 2.604 | 0.465-3.168 | 0.031-0.123 | 6.8-37.2 | 0.000-0.005 | 0.021-1.438 |
| 0.186 | 0.773 | 0.989 | 0.051 | 13.7 | 0.002 | 0.275 |
| _ | — | — | | _ | | |
| 0.075-3.232 | 0.303-1.004 | 0.498-3.979 | 0.031-0.083 | 7.2-22.7 | 0.000-0.002 | 0.023-1.057 |
| 0.437 | 0.584 | 1.036 | 0.053 | 11.3 | 0.001 | 0.318 |
| _ | — | _ | _ | | | |

の硫黄,炭素,窒素,塩素,鉄の分布と平均値

第4表 瓜連丘陵の引田層における泥質層中の金属元素の分布と平均値

| | | (%) | カルシウム | マグネシウム | カリウム | ナトリウム | 鉄 | マンガン |
|-------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|--------------|
| 水 | 第Ⅲ堆積 | 範囲 | 0.000-0.228 | 0.001-0.113 | 0.000-0.011 | 0.000-0.011 | 0.000-0.213 | 0.000-0.011 |
| 抽出 | (27) | 平均值 | 0.031 | 0.031 | 0.002 | 0.004 | 0.064 | 0.002 |
| 金属 | 第I堆積 | 範囲 | 0.000-0.164 | 0.002-0.050 | 0.001-0.009 | 0.002-0.010 | 0.000-0.124 | 0.000-0.008 |
| | サイクル (20) | 平均值 | 0.023 | 0.011 | 0.005 | 0.006 | 0.022 | 0.001 |
| 0.12 | 第Ⅲ堆積 | 範囲 | 0.246-0.399 | 0.085-0.196 | 0.024 -0.048 | 0.015 -0.043 | 0.021 -1.438 | 0.004-0.015 |
| | (27) | 平均值 | 0.302 | 0.132 | 0.034 | 0.028 | 0.275 | 0.008 |
| 温油 酸出 | 第I堆積 | 範囲 | 0.248-0.419 | 0.071-0.162 | 0.031-0.068 | 0.018-0.035 | 0.023-1.057 | 0.004-0.056 |
| 金属 | (20) | 平均值 | 0.345 | 0.121 | 0.050 | 0.029 | 0.318 | 0.020 |
| 1.2 | 第Ⅲ堆積 | 範囲 | 0.344 - 0.498 | 0.120 -0.281 | 0.056 -0.117 | 0.038 -0.083 | 0.650 -1.378 | 0.010 -0.031 |
| /1 | (27) | 平均值 | 0.407 | 0.221 | 0.089 | 0.055 | 0.910 | 0.016 |
| 協力 | 第I堆積 | 範囲 | 0.360-0.734 | 0.015-0.304 | 0.083 -0.190 | 0.028 -0.104 | 0.684 -1.504 | 0.006 -0.038 |
| 金属 | (20) | 平均值 | 0.501 | 0.221 | 0.135 | 0.060 | 1.082 | 0.022 |
| 全 | 第Ⅲ堆積 | 範囲 | 0.782-1.597 | 0.391-1.225 | 1.063-1.425 | 1.019 - 1.653 | 2.550 - 5.579 | 0.033-0.076 |
| 測定 | (27) | 平均值 | 1.151 | 0.800 | 1.296 | 1.356 | 3.330 | 0.047 |
| 金属 | 第I堆積 | 範 囲 0.670-1.7 | | 0.661-1.293 | 0.927-1.832 | 0.651-1.562 | 2.894 -6.332 | 0.028-0.584 |
| | サイクル (20) | 平均值 | 1.262 | 0.947 | 1.395 | 1.158 | 3.692 | 0.107 |

0.000-0.134%, 平均値 0.023%, 第Ⅲ堆積サイクルで 含量範囲 0.000-0.706%, 平均値 0.154% である.全硫 黄に対する比率は第 I 堆積サイクルで 6.9%, 第Ⅲ堆積 サイクルで 14.4% で,全硫黄の多い第Ⅲ堆積サイクル が高い比率を示すのが注目される.全硫黄とはよい相関 を示し,相関係数は第 I 堆積サイクルで 0.94 で,第Ⅲ 堆積サイクルで 0.98 である.回帰直線は第 I 堆積サイ クルで Y=0.12 X+0.011,第Ⅲ堆積サイクルで Y= 0.14 X+0.006 でほぼ原点を通る直線である(第8図). 塩酸抽出硫酸塩硫黄は,第 I 堆積サイクルで含量範囲

0.000-0.096%, 平均値は 0.023%, 第Ⅲ堆積サイクル

での含量範囲 0.001-0.570%, 平均値 0.105% である. ほぼ水抽出硫酸塩硫黄と同量である.相関係数は第 I 堆 積サイクルは 0.80, 第皿堆積サイクルは 0.95 である (第 9 図).

一硫化鉄硫黄は、第 I 堆積サイクルで含量範囲 0.000-0.146%、平均値は 0.025% である。第Ⅲ堆積サイクルで含量範囲 0.000-0.843%、平均値は 0.141% である。
全硫黄量に対する比率は第 I 堆積サイクルで 6.8%、第
Ⅲ堆積サイクルで 13.2% である。ここでも第Ⅲ堆積サイクルで 13.2% である。
オクルで大きい。全硫黄に対する相関係数は、第 I 堆積 サイクルが 0.74、第Ⅲ堆積サイクルで 0.96 である(第

-581-

地質調査所月報(第39巻第9号)



第4図 瓜連丘陵引田層の第1堆積サイクルの測定成分の分布と平均値



第5図 引田層第I堆積サイクルの全硫黄、炭素の形態別組成、硫黄の形態別組成、珪藻の出現割合の垂直分布

茨城県中部、瓜連丘陵の第四系泥質層の化学組成・化石珪藻から見た堆積環境(狛 ほか)



-583-





10図).

二硫化鉄硫黄は,第I堆積サイクルで含量範囲0.062-1.189%,平均値0.297%,第Ⅲ堆積サイクルで含量範 囲0.021-2.779%,平均値0.577%である.相関係数は 第I堆積サイクルで0.99,第Ⅲ堆積サイクルで1.00で ある(第11図).

炭素

全炭素量は,第I堆積サイクルで含量範囲0.498-3.979%,平均値1.036%である.第Ⅲ堆積サイクルで は含量範囲0.465-3.168%,平均値は0.989%である.

非有機炭素量は,第Ⅰ堆積サイクルで含量範囲0.075-3.230%,平均値0.437%,第Ⅲ堆積サイクルで0.020-0.564%,平均値は0.186%である.

有機炭素量は,第I堆積サイクルで0.303-1.004%, 平均値は0.584%,第Ⅲ堆積サイクルで0.294-2.604%, 平均値は0.733%である.全炭素に対する比率は第I堆 積サイクルで56.4%,第Ⅲ堆積サイクルで74.1%であ る.第I堆積サイクルより第Ⅲ堆積サイクルの方が高率 である.

窒 素

全窒素は、第Ⅰ堆積サイクルで含量範囲0.031-0.083 %、平均値0.053%、第Ⅲ堆積サイクルでの含量範囲は 0.031-0.123%、平均値0.051%である.

塩素

水溶性塩素は,第I堆積サイクルで含量範囲0.000-0.002%,平均値0.001%,第II堆積サイクルでの含量 範囲0.000-0.005%,平均値0.002%である.

金属元素

全鉄は、第 I 堆積サイクルで含量範囲 2.894-6.332%、 平均値 3.692%、第Ⅲ堆積サイクルでは含量範囲 2.550-5.579%、平均値 3.330% である(第 12 図). CLARKE (1920) が明らかにした堆積物中の金属元素の分析値と 比較する. CLARKE の全鉄の値は、泥岩では Fe₂O₃ で 4.02% (Fe:2.17%)、FeO では1.07% (Fe:0.83%)、 合計 Fe として 3.00% であるから多目である.第 I、 第Ⅲ堆積サイクルともほぼ同じである.



第9図 0.12 N-塩酸抽出硫酸塩硫黄と全硫黄の関係

水抽出鉄は,第I堆積サイクルで含量範囲0.000-0.124%,平均値0.002%,第Ⅲ堆積サイクルで含量範 囲0.000-0.213%,平均値0.213%である.全鉄中に占 める割合は第Ⅲ堆積サイクルでは6.4%である.

0.12 N-塩酸抽出鉄は,第I堆積サイクルで含量範囲 0.023-1.057%,平均値0.318%,第Ⅲ堆積サイクルで 含量範囲0.021-1.438%,平均値0.275%である.全鉄 中に占める割合は第Ⅲ堆積サイクルで8.3%である.

1.2 N-塩酸抽出鉄は,第I堆積サイクルで含量範囲 0.684から1.504%,平均値1.082%,第Ⅲ堆積サイク ルで含量範囲0.650-1.378%,平均値0.9105である. 全鉄に占める割合は第Ⅲ堆積サイクルでは27.3%である.

全カルシウムは,第I堆積サイクルでは含量範囲 0.670-1.726%で,平均値は1.2625である.第Ⅲ堆積 サイクルでの含量範囲は0.782-1.597で平均値は1.151 %である. CLARKE (1920)の全カルシウムの値は泥岩 では CaO で 3.11% (Ca:2.11%)であるから,第I ・第Ⅲ堆積サイクルともそれより少ない.

水抽出カルシウムは,第I堆積サイクルにおける含量 範囲 0.001-0.009%,平均値 0.005%である.第Ⅲ堆積 サイクルでの含量範囲は 0.000-0.010%で平均値で 0.002%である.全カルシウム中に占める割合は 0.29% である.

0.12 N-塩酸抽出カルシウムの第 I 堆積サイクルの含 量範囲は、0.248-0.419%、平均値 0.345% である.第 Ⅲ堆積サイクルでの含量範囲は、0.246-0.399%、平均 値は 0.3025 である.全カルシウム中に占める割合は 27.8% である.

1.2 N-塩酸抽出カルシウムは,第I堆積サイクルで 含量範囲 0.360-0.734%,平均値 0.5015 である.第 皿 堆積サイクルでの含量範囲 0.344-0.498,平均値は 0.407 % である.全カルシウム中に占める割合は 37.6% であ る.

全マグネシウムは,第Ⅰ堆積サイクルにおける含量範 囲は 0. 661-1. 293%,平均値 0. 947% である.第Ⅲ堆積



第10図 一硫化鉄硫黄+元素硫黄と全硫黄の関係

-586-

サイクルでの含量範囲は 0. 391-1. 225%, 平均値 0. 800 % である. CLARKE (1920) による泥岩中の平均全マグ ネシウムの値は MgO で 2. 44% (Mg:1. 39%) である から, 第 I, 第 III 堆積サイクルとも平均量の 60% 程度 である.

水抽出マグネシウムは,第I堆積サイクルで含量範囲 0.002-0.050%,平均値 0.011% である.第Ⅲ堆積サイ クルでは含量範囲 0.001-0.113%,平均値 0.0315 であ る.

0.12 N-塩酸抽出マグネシウムは,第Ⅰ堆積サイクル で0.071-0.162%,平均値0.121%である.第Ⅲ堆積サ イクルの含量範囲は0.085-0.196%で平均値0.132%で ある.

1.2 N-塩酸抽出マグネシウムの第 I 堆積サイクルに おける含量範囲は 0.015-0.304,平均値 0.221% である. 第Ⅲ堆積サイクルでの含量範囲は 0.120-0.281%,平均 値 0.221% である.

全カリウムは、第1堆積サイクルでの含量範囲は

0.925-1.832%, 平均値は 1.395% である. 第Ⅲ堆積サ イクルでの含量範囲は 1.063-1.425%, 平均値は 1.296 % である. CLARKE (1920) による泥岩中の平均全カリ ウムの値は K₂O で 3.24% (K: 2.69%) であるから第 Ⅰ, 第Ⅲ堆積サイクルとも平均量のほぼ 50% である.

水抽出カリウムは, 第 I 堆積サイクルでは含量範囲は 0.001-0.009%, 平均値は 0.005% である. 第Ⅲ堆積サ イクルでは 0.000-0.010% で平均値 0.002% である.

0.12 N-塩酸抽出カリウムは,第 I 堆積サイクルでの 含量範囲は 0.031-0.068%,平均値は 0.050% である. 第Ⅲ堆積サイクルでは含量範囲は 0.024-0.048%,平均 値 0.034% である.

1.2 N-塩酸抽出カリウムは,第Ⅰ堆積サイクルでの 含量範囲は 0.083-0.190%,平均値 0.135% である.第 Ⅲ堆積サイクルでは 0.056-0.117%,平均値 0.089% で ある.

全ナトリウムは, 第 I 堆積サイクルにおける含量範囲 は 0.651-1.562% で, 平均値は 1.158% である. 第Ⅲ堆







第12図 引田層の金属元素の濃度範囲と平均値

- 587 --

地質調查所月報(第39巻第9号)

積サイクルでの含量範囲は 1.019-1.653%, 平均値は 1.356% である. CLARKE (1920) による泥岩中の平均 全ナトリウムの値は Na₂O で 1.30% (Na:0.96%) であるから第Ⅰ, 第Ⅲ堆積サイクルとも平均量のほぼ 1.3倍である.

水抽出ナトリウムは,第Ⅰ堆積サイクルでは含量範囲 0.000-0.011%,平均値0.004%である.第Ⅲ堆積サイ クルでは0.002-0.010%,平均値0.006%である.

0.12 N-塩酸抽出ナトリウムは,第I堆積サイクルで は含量範囲 0.018-0.035%,平均値は 0.029% である. 第Ⅲ堆積サイクルの含量範囲は 0.015-0.043%,平均値 0.028% である.

1.2 N-塩酸抽出ナトリウムは,第I堆積サイクルで は含量範囲 0.028-0.104%,平均値 0.060%,第Ⅲ堆積 サイクルでは 0.038-0.083%,平均値 0.055% である.

5.2 珪 藻

本研究で検討した 48 試料から見いだされた珪藻種は 44 属 169 種である.各試料における真塩性(海水生) 種,中塩性(汽水生)種,貧塩性(淡水生)種の出現割 合を付表 A-1 および第5,7図に示した.

この付表 A-1 および第5,7 図から明らかなように, 珪藻種の塩分に対する適応性にもとづくと,第I堆積サ イクルは3つに,第II堆積サイクルは2つのゾーンに分 帯される(全硫黄のグループとは区分が異なる).

第 I 堆積サイクルの 第1 ゾーンは試料 L-162 から試 料 L-152 までで珪藻量が多い. 出現種のすべて, ある いは大部分は貧塩性種で占められている. 優占種は Diatoma vulgare, Melosira varians, Synedra inaequalis, Rhopalodia gibberula, Achnanthes lanceolata, Gomphonema parvulum, Cocconeis placentula である. これらのうち Diatoma vulgare, Synedra inaequalis, Achnanthes lanceolata, Gomphonema parvulum は好流水性とされている種 類であり, 他は流水不定性種である.

第2ゾーンは試料 L-144 から試料 L-63 までで,珪 藻量の少ない試料,普通あるいは多い試料と様々である. 出現種はほぼ 10-20%の中塩性種と数%前後の真塩性 種である.優占種は試料によってまちまちである.

第3ゾーンは, 試料 L-55 から試料 L-8 までで珪藻 量は非常に少ない. 出現種は貧塩性種がほとんどで, 試 料 L-34, L-18 に少量の中塩性種が見られるだけである. 中塩性種は, Bacillaria paradoxa, Thalassiosira bramaputrae, Navicula peregrina, Nitzschia parvula, Synedra pulchella で, いずれも汽水域で 最もよく繁殖するが, 淡水域でもしばしば見いだされて いる種類である.

第Ⅲ堆積サイクルの第1ゾーンは試料 U-218 から試 料 U-23 までで、第I堆積サイクルの第3ゾーンとよく 似ており、珪藻量が非常に少ない. 出現種は貧塩性種が ほとんどで、優占種は見られなく、試料 U-29, U-27, U-23, に中塩性種の Bacillaria paradoxa, Thalassiosira bramaputrae, Navicula peregrina, Nitzschia parvula, Synedra pulchella が少量見られるに 過ぎない.

第2ゾーンは試料 U-22 から試料 U-2 までで、珪藻 量は多い. 出現種は中塩性種が 1/3-1/2 を占めている. 優占種は Synedra tabulata と Cocconeis placentula で、この両者で出現量の 1/4-1/2 を占める. 第1ゾーン と第2ゾーンの境は明瞭である. 第1ゾーンの最上部の 試料 U-23 では貧塩性種が 92.6% を占めているのに対 して、その直上の試料 U-22 では 37.5% と激減し、逆 に中塩性種と真塩性種が急増している.

6. 考 察

6.1 化学組成による堆積環境の推定

堆積物の形成環境を化学組成から推定しようとする試 みは従来から多くの人々によってなされ、多くの元素が 指示元素として提案されてきた. 硫黄を指示元素として 取り扱った研究は狛・佐川, 1970; 狛, 1974; 狛ほか, 1974; 伊藤ほか, 1977; 田中ほか, 1981; 寺島ほか, 1981; 白神, 1985; 中井ほか, 1982; KOMA and SUZUKI, 1985 らがある. ここに報告するのは第四紀泥質層にお ける全硫黄, 形態別硫黄, 全硫黄と有機炭素, 全硫黄と 有機炭素/全窒素比及び金属元素の含量の関係からみた 堆積環境推定の結果である.

全硫黄にもとづく堆積環境推定では、堆積物中の含量 0.2-0.3% 以上を海成堆積物、それ以下を淡水成堆積物 と判断して大きな誤りはなかった(狛ほか,1983 a, b). その後、深海底堆積物、砂質堆積物及び有機物含量の多 い堆積物などまで対象試料範囲が拡大されるようになる と、従来の生物化石を指標とした結果とは食い違いが生 じるようになってきた(TERASHIMA et al.,1982).そ こで、本報告では硫黄の形態別組成、炭素の形態別組成、 全窒素、金属元素の測定結果、全硫黄と有機炭素/全窒 素比、全硫黄と有機炭素との関係、及び鉄、マンガン量 の鉛直分布を検討した.

今回の試料採取地域の堆積物は,すでに述べたように 粒度組成から四つの堆積サイクルに分けられる.さらに, 全硫黄量の鉛直分布から見て,第Ⅰ堆積サイクルの泥質 層は3つのグループに,第Ⅲ堆積サイクルの泥質層は2

茨城県中部、瓜連丘陵の第四系泥質層の化学組成・化石珪藻から見た堆積環境(狛 ほか)



第13図 瓜連丘陵引田層第I堆積サイクルの金属元素の垂直分布

つのグループに分けられる.以下,各グループごとに堆 積環境を形態別元素存在度に関連づけて考察する(第 13,14図).

第5図から明らかなように第I堆積サイクルの第1グ ループは、全硫黄量が多い.また、有機炭素も多く、硫 酸イオンが集積しているので、硫黄は炭質物中に吸着濃 集したものが多いと考えられる.このグループの金属元 素組成をほかのグループと比較すると全鉄、マンガン、 カルシウムが多い(第13図).このことから堆積時に還 元環境で、硫化物として硫黄を濃集したとは考えられな い.むしろ堆積後に地下水によって運ばれてきた硫酸イ オンが濃集した可能性が強い.

第2グループは,所々に全硫黄量が0.5%前後の部分 があるグループで,有機炭素の多い部分に硫黄量も多い (第5図).L-85 前後に有機炭素の多い部分も見られる がほとんどは,1.0%以下である.また硫黄の形態別含 量を見ると硫化鉄硫黄が多く見られる反面,硫酸塩硫黄 も見られるというように試料によってまちまちである. このことから,このグループは海水と淡水の交代が頻繁 に起こる環境での堆積物と考えられる.

第3グループは,全硫黄量が0.1%以下で,硫黄の形 態別組成もほとんどが二硫化鉄硫黄で占められているこ とから,淡水成環境であって,多くの硫化物を生成する 環境でない.しかも比較的酸化的堆積環境であったと推 定される.

第7図に見られるように第Ⅲ堆積サイクルの第1グル ープは、全硫黄量が非常に少なく0.2%以下である. 硫 化鉄硫黄は全体に見られるが、二硫化鉄硫黄が圧倒的に 多く、80%を越えるものがほとんどである. 金属元素 の鉛直分布も大きな変化がなく、全体的に穏やかな淡水 環境で堆積し、地下水などの影響を受けない堆積物と考 えられる.

第2グループは、全硫黄、有機炭素量、硫酸塩硫黄量 ともに多く、第1グループとは判然と違っている.その 境界は U-28 にあって、上方に向かってそれぞれの成分 が増加している.U-28 付近では、海水によって硫酸塩 を増加させるとともに、有機物の蓄積が行われていたと 考えられる.第15 図に示しているように有機炭素/全窒 素比は 10-20 前後で陸源有機物沈積としては少ない.こ のことから、海水の進入とともにプランクトンの発生に よる有機炭素の蓄積が行われたものと考えられる.

6.2 化石珪藻から見た堆積環境

出現珪藻から古環境の変遷を推定する.第5図で示す ように第1堆積サイクルの第1ゾーンからは貧塩性好流 地質調查所月報(第39巻第9号)



第14図 瓜連丘陵引田層第Ⅲ堆積サイクルの金属元素の垂直分布

水性種が多く見いだされ,この部分は淡水で流れの要素 の強い環境,すなわち河川で堆積した可能性が大きい. 第2ゾーンでは,貧・中・真塩性種の割合や優占種など, 試料による変化が大きい.このことから第1ゾーンに比 べて塩分濃度がやや高くなり,汽水あるいは海水の要素 がわずかに加わるような堆積環境であり,その堆積環境 も不安定なものであったと思われる.第3ゾーンになる と貧塩性種がほとんどである.少量の中塩性種が見られ るが,この種類は汽水で最もよく繁殖するが,淡水域で もしばしば見られる種類であるから,このゾーンは完全 な淡水の影響のもとで堆積が行われ,海水や汽水の影響 が全くなかったと考えられる.

一方第7図に示すように,第Ⅲ堆積サイクルの第1ゾ ーンは,貧塩性種が100%で,淡水性の環境であったと 考えられる.

第2ゾーンでは, 試料 U-23 から U-22 に移る部分 で, 塩分濃度が急上昇し, 汽水環境となったと推定され る. また,出現種の大部分が Synedra tabulata, Cocconeis placentula などの着生種で,浮遊種がほとん ど見られないことから,この汽水域は浅かったと考えら れる.

6.3 硫黄・珪藻による分析結果の比較

第 I 堆積サイクルの第 1 ゾーンは珪藻分析からは完全 な淡水となるが,全硫黄量は高く,一般的な傾向 (BERNER, 1970; KEITH and DEGENS, 1959;市原・市 原, 1971; 狛, 1978; SWEENEY, 1972)と一致しない. この不一致については硫黄の濃集が今まで一般的に考え られていた過程,即ち,淡水環境では硫酸塩の不足によ って,硫黄が濃集しないと考えられていた(BERNER, 1984; SWEENY and KAPLAN, 1980)こととは異なった 過程で濃集したものである.

第16図に全硫黄と有機炭素の関係を示した.有機炭 素量に大きな変化がないのに全硫黄量が増減することが わかる.このことは硫黄の濃集が硫酸塩の供給量に支配



第15図 瓜連丘陵引田層の全硫黄と有機炭素/全窒素比の関係

されることを示している.このような全硫黄と有機炭素 の関係があり、しかも淡水種の珪藻が検出されるような 場合を想定すると、淡水環境で堆積している河川堆積物 に一時的に河口から遡上してきた海水から硫酸塩が供給 された場合と、淡水珪藻を含む有機物の多い河川堆積物 が堆積した後、硫酸塩を含む地下水などによって運ばれ てきた硫酸イオンが炭質物中に吸着濃集した場合とが考 えられる.今回の場合は鉄とマンガン及びカルシウムが 濃集されている.海水の pH は一般にアルカリ性であ り、鉄、マンガンは海域に入ると沈澱し海水中には溶解 量がきわめて少ないことからここでは後者の可能性が考 えられる.しかし、有機炭素/全窒素比が、10 前後であ ること及び鉄、マンガン、カルシウム等金属元素の堆積 物中の挙動が充分に研究されておらず、多くの問題をか かえており、今後の研究課題となっている.

第2,3ゾーンは、硫黄と珪藻の変化曲線がよく一致 する.特に第3ゾーンは、真塩性種及び中塩性種の率が 0である試料の範囲では、全硫黄量も約0.1%の値で一 定していることが、第5図から読み取れる.

第Ⅲ堆積サイクルについては第1ゾーンで,第Ⅰ堆積

サイクルの第3ゾーンと同様に、全硫黄量と珪藻分析の 結果がよく一致する、第1ゾーンから第2ゾーンへの移 行では、全硫黄量が少しずつ増え始め、やがて急激に増 加するのに対し、珪藻のデータではこのような先行的な 変化は見られず、わずかに試料 U-29 と U-27 で中塩性 種が少量見られた後, 試料 U-23 から U-22 に移る部分 において、ほとんど不連続ともいえる状態で中塩性種と 真塩性種が増加している.しかし、このように全硫黄と 珪藻の含量が急激に増加する変化は両者できわめてよく 一致している. さらにその後, 全硫黄量はやや減少し, 珪藻は全体として減少する形を示す点も共通している. 試料 U-16, U-8 及び U-10 のところで中塩性種の珪藻 の占める割合が減少するが、U-8 及び U-10 のところで 全硫黄量も減少し、両者は密接な関係のもとで変化して いることを示す、したがって、このように珪藻を用いた 生物的手法による古堆積環境の判定結果は、今回の試料 に関しては全硫黄量による環境の判定とよく一致するも のと結論付けてもよい.しかし,一部には不一致な部分 もあり、この原因を追求することによって、さらに詳細 な堆積環境の解析に役立つと考えられる. 今後さらに多

地質調查所月報(第39巻第9号)



第16図 瓜連丘陵引田層の全硫黄と有機炭素の関係

くの同一試料について、両成分の分析を行い、比較検討 する必要がある.

7. まとめ

(1) 坂地北方の砂利採り場において,引田層を構成す る四つの堆積サイクルのうち,少なくともⅠからⅢのサ イクルについては,その泥質部の一部が海水の影響下に 堆積したことが判明した.泥質部中のどの層準において 海水の影響が最も顕著になるかについては,一定の規則 性は認められない.

(2) 化石珪藻により海水の影響があると判断される ときは全硫黄量も多くなり,両者の指示する堆積環境は 概略においてよく一致する.

(3) 泥質層中に炭質物を多く含む場合,淡水性の珪藻 を含む地層であっても全硫黄が高くなることがある.これには,泥質層の形成後海水の一時的な進入があった場合,あるいは堆積後に地下水によって運ばれた硫酸イオンが濃集した場合の2通りが考えられる.今回は,このうち後者の場合であったことが,鉄、マンガン量から推 定できた.

(4) 引田層の礫・砂層部分が河成であることはすでに 報告されている(牧野ほか,1982;坂本・正井,1982). このことと今回の分析結果とを総合すると,引田層は全 体として,河川性環境から河口性環境への変化を少なく とも4回繰り返しながら,河谷を埋積していった堆積物 と考えられる.この期間,河谷の埋積と海水準の上昇は ほぼ平衡を保ちながら進行していったものであろう.

文 献

- 安藤一男・南雲 保(1983) 埼玉県荒川低地沖積層の ケイソウ.日本歯科大学紀要, no. 12, p. 241-290.
- BERNER, R.A. (1970) Sedimentary pyrite formation. Amer. J. Sci, vol. 268, p. 1-23.
- (1984) Sedimentary pyrite formation : An update. *Geochim. Cosmochim. Acta*, vol. 48, p. 605–615.

CLARKE, F.W. (1920) Data of geochemistry,

茨城県中部, 瓜連丘陵の第四系泥質層の化学組成・化石珪藻から見た堆積環境(狛 ほか)

U.S.G.S., Bull., no. 695, p. 828.

- HENDEY, N. (1958) Marine diatoms from some west African ports. J.R. *Micr. Soc. Ser.* III. 77, p. 28-85.
- HUSTEDT, F. (1930) Bacillariophyta. In A. Pascher, Süsswasser-Flora Mitteleuropas. vol. 10, 466 p. Gustav Fischer, Jena.
- 市原 実・市原優子(1971) 大阪層群の海成粘土と淡 水粘土について. 竹原平一教授記念論文集, p. 173-181.
- 伊藤 聡・狛 武・根本隆文・横田節哉・木村 享
 (1977) 北海道北部地域における第三泥質岩の化学組成.地調月報,vol. 28, p. 57-67.
- KAJIYAMA, R. and HOSHINO, K. (1971) Determination of sulphur in steel by modified combustion procedure and coulometric titration, *Jour. Soc. Anal. Chem.*, vol. 96, p. 835–842.
- 金原均二・本島公司・石和田靖章(1958) コア試験法. 天然ガス,朝倉書店,東京,p. 187-203.
- KEITH, M.L. and DEGENS, E.T. (1959) Geochemical indicators of marine and fresh-water sediments, in P.H. ABELSON ed., in Researches in Geochemistry, John Wiley & Sons, Inc. New York, p. 38-61.
- 小池一之・岩崎孝明・檀原 徹・百瀬 貢(1984) 下 野火山灰下部層のフィッション・トラック年 代とその地史的意義.第四紀学会講演要旨集, p. 87-88.
- (1978) 第三紀堆積岩の硫黄含量と堆積環境,
 北海道中央部芦別川流域.石技誌, vol. 43,
 p. 128-136.
- (1983) 電量滴定および高周波燃焼法を用いた岩石,堆積物中の全硫黄の定量.地調月報,vol. 38, p. 777-783.
 - ・伊藤 聡・横田節哉・上島 宏(1974) 北
 西北海道築別付近における新第三系泥質岩類
 の化学組成. 石技誌, vol. 39, p. 95–105.
- ・坂本 亨・安藤 厚(1983 b) 茨城県中部
 地域における上部新生界堆積岩の全硫黄量と
 堆積環境.地調月報,vol. 34, p. 279-293.

- 狛 武・佐川 昭(1970) 北海道古第三系泥質岩の
 化学組成一石狩源料炭 34 号試すいにおける
 一例一.地調月報, vol. 21, p. 67-79.
- KOMA, T. and SUZUKI, Y.(1985) Forms of sulfur, carbon and iron in marine sediments with special reference to their depositional environments. *Marine and estuarine geochemistry*, p. 197-208. (edited by A.C. SIGLEO and HATTORI), Lewis Publishers, INC.
- 牧野泰彦・北山依志・椎名しずえ(1982) 茨城県大宮 町若林に見られる更新統の河川堆積物. 茨城 大教育紀要, no. 31, p. 65-71.
- 中井信行・太田友子・藤沢 寛・吉田正男(1982) 堆 積物コアの炭素同位体比,C/N比および FeS₂ 含有量からみた名古屋港周辺の古気候, 古海水準変動.第四紀研究,vol.21,p.167-177.
- PATRICK, R. and REIMER, C.W. (1966) The diatoms of the United States. 1. Acad. Nat. Sci. Philadelphia, 688 p.
- ------ and REIMER, C.W. (1975) The diatoms of the United States. 2 (1). Acad. Nat. Sci. Philadelphia, 213 p.
- 坂本 亨(1986) 瓜連・友部丘陵および柿岡盆地の地 質(瓜連丘陵),第四系,関東地方(日本の 地質3).共立出版,東京,188 p.
- -----・正井義郎(1982) 研究学園都市周辺,地質の見どころ(その4).地質ニュース, no. 338, p. 1-4.
- ・字野沢昭(1976) 茨城県瓜連丘陵の第四系 と久慈川・那珂川の河谷発達史.地調月報, vol. 27, p. 655-664.
- 白神 宏(1985) FeS₂ 含有量からみた広島平野沖積 層の堆積構造. 地理学評論, vol.58, p.631-644.
- 杉崎隆一(1981) 泥質堆積物の全組成の分析法ならび に表示法の改良一とくに海底堆積物の場合 一. 地質雑, vol. 87, p. 77-85.
- SWEENEY, R.E. (1972) Pyritization during diagenesis in marine sediments. ph. D. dissertation, Univ. California, Los

-593-

Angeles, Calif., 184 p.

- SWEENEY, R.E. and KAPLAN, I.R. (1980) Stable isotope composition of dissolved sulfate and hydrogen sulfide in the Black Sea. Mar. Chem. vol. 9, p. 145-152.
- 田中啓策・寺島 滋・寺岡易司(1981) 鹿児島県飯島
 の上部白亜系姫浦層群泥質岩の硫黄・炭素含
 量. 地調月報, vol. 32, p. 417-431.
- 寺島 滋(1970) 原子吸光分析法における珪酸塩岩石 鉱物並びに陸水中のナトリウム、カリウム、 マグネシウム、カルシウム、マンガン、鉄の 定量. 地調月報、vol. 21, p. 693-707.
 - ――(1979) 赤外吸収分析法による岩石,鉱石,

堆積物中の全炭素,全硫黄,炭酸塩素,非炭 酸塩素の定量.地調月報,vol.30, p.609-627.

- ・稲積章生・石原舜三(1981) 中国,四国地 方の泥質岩中の炭素と硫黄.地調月報,vol. 32, p. 167-181.
- TERASHIMA, S., NAKAO, S. and MOCHIZUKI, T. (1982) Sulfur and carbon contents of manganese nodules from the Central Pacific, GH 80-1 Cruise. Bull. Geol. Surv. Japan, vol. 33, p. 111-123.

(受付: 1988年4月20日; 受理: 1988年7月11日)

録

付

付表 A-1 茨城県中部, 瓜連丘陵の第四系引田層泥質物の全硫黄・化石珪藻の分析結果

| 層 厚 | பக | 試 | 料 | 硫黄 | 珪藻 | 出現率 | % | J | 鬙 厚 | ய க | 試 | 料 | 硫黄 | 珪藻 | 出現率 | % |
|-------|-------------------|------|-------------|-------|------|------|------------|---|-----|--------------------|-----|-----------------|----------|-----|-----|----------|
| cm | 石貨 | 番 | 号 | | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 | | cm | 石 質 | 番 | 号 | 宮 重 % | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 |
| 400 | 黄灰色均質中砂 | р, Ц | 上部 | で大型の | パイプ壮 | 犬生痕多 | <i>l</i> v | - | | | U- | -32 | 0.252 | 0. | 0. | 100. |
| 100 | 灰褐色均質細砂 | >, ⊥ | 上部 | に黄灰色 | 火山灰雁 | 層が断続 | | | 35 | 灰~灰褐細砂 | - | -33 | 0.230 | | | |
| 80 | 黄褐色砂鉄質中 | 砂 | | | | | | | 00 | | - | -34 | 0.157 | | | |
| 90 | 黄灰色シルト(| 風 | と帯 |) | | | | - | | | - | -35 | 0.144 | 0. | 0. | 100. |
| | | U- | - 1 | 1.998 | | | | - | 5 | 灰色シルト | - | -36 | 0.176 | | | |
| | 暗灰色塊状 | - | - 2 | 1.850 | 13.7 | 40.0 | 46.3 | | 10 | 灰色粘土質シル | - | -37 | 0.149 | | | |
| 25 | 粘土質シルト | - | - 3 | 2.012 | | | | - | | <u>۲</u> | | -38 | 0.164 | 0. | 0. | 100. |
| | (白色粘土パ) | - | - 4 | 2.360 | 16.7 | 41.7 | 41.7 | | 10 | 微細砂質シルト 白色粘土パッチ | - | -39 | 0.112 | | | |
| | | - | - 5 | 2.635 | | | | | 10 | 含 細木片含 | - | -40 | 0.127 | | | |
| | 暗灰色塊状シル | · - | - 6 | 4.284 | 13.3 | 40.0 | 46.7 | - | | 灰色粘土質シル | 1_ | -41 | 0.091 | 0. | 0. | 100. |
| | ь • | - | - 7 | 3.283 | | | | | 10 | ト 細木片すじろ | _ | -12 | 0.087 | •• | •• | 2001 |
| | (細木片まじる) | - | - 8 | 3.040 | 7.9 | 38.6 | 53.5 | - | 19 | ***** | 相合 | 44 44 442 | 10.001 | | | |
| 32 | (粘土ラミナ人 { る) | | - 9 10 | 2.674 | 4 77 | 00.0 | 50.0 | - | | | *+- | ニー/ | 2112 | | | <u> </u> |
| | | | -10 -11 | 3,006 | 4.7 | 39.3 | 56.0 | - | 10 | 世ではい人物的 | | | | | | |
| | | - | -12 | 2,651 | | | | - | 10 | 奥沢巴シルト | 1 | -61 | 0.070 | · | | |
| 8 | 同上 藪石まじめ | _ | | 3 890 | 2 1 | 66.3 | 31.6 | | 12 | 灰褐色シルト | | -01 | 0.072 | 0 | 0 | 100 |
| | | | _14 | 4 252 | 4.1 | | | - | | · | - | -02 | 0.002 | 0. | 0. | 100. |
| | (軽石まじり) | | _14 15 | 4.202 | | | | | 5 | 日っはい火崎 色シルト | - | -53 | 0.033 | | _ | |
| | 帯褐暗灰色シルト出質物(木片) | - I | -16 | 4.582 | 5.6 | 34.3 | 60.2 | - | | | | -54 | 0.015 | 0. | 0. | 100. |
| | 多い | - | -17 | 3,882 | ••• | 00 | 00.0 | | 10 | 業広会といい | - | -55 | 0.016 | | | |
| 43 | | - | -18 | 3,994 | | | | | 10 | 東灰色シルト | | -50 | 0.021 | | | |
| | (腐泥臭あり) | - | -19 | 2.851 | 16.1 | 54.8 | 29.0 | - | | | - | - 01 | 0.024 | | | |
| | | ` - | -20 | 2.667 | | | | | | | - | -58 | 0.061 | | | |
| | | - | -21 | 2.092 | | | | | | | | | 0.079 | 0 | 0 | 100 |
| | | - | -22 | 1.632 | 12.5 | 50.0 | 37.5 | | 33 | 灰褐色塊状 | _ | 61 | 0.079 | 0. | 0. | 100. |
| 7 | 灰色塊状シルト | - | -23 | 0.523 | 3.7 | 3.7 | 92.6 | | 00 | シルト | - | -62 | 0.084 | | | |
| ····· | 灰色塊状シルト | · - | -24 | 0.315 | | | | | | | - | -63 | 0.082 | | | |
| 15 | 質 微細砂,細木片 | | -25 | 0.239 | 0. | 0. | 100. | | | | - | -64 | 0.074 | | | |
| | 多い | ! | -26 | 0.292 | | | | - | | | - | -65 | 0.076 | | | |
| | 压备细码 | - | -27 | 0.568 | 0. | 6.7 | 93.3 | | | | - | -66 | 0.086 | | | |
| 38 | 灰巴和砂 | - | -28 | 0.227 | | | | | 00 | 黄味がかった | - | -67 | 0.090 | | | |
| 10 | 灰色微細砂 | | | | | | | | 30 | 灰褐色塊状シ ルト | - | -68 | 0.073 | | | |
| 40 | 灰色シルト,下半 | 部 | て炭 | 質物多い | | | | | | | - | -69 | 0.096 | | | |
| 80 | 暗緑色シルト, | 弱 | いラ | ミナあり |) | | | | | | - | -70 | 0.100 | | | |
| 30 | 黄灰色塊状シル | レト | | | | | | | | | - | 71 | 0.088 | | | |
| | | Τ. | <u>-2</u> c | 0,185 | 0. | 7.1 | 92.9 | - | 30 | 灰褐色塊状 | - | -72 | 0.120 | | | |
| 35 | 灰~灰褐細砂 | - | -30 | 0.219 | -• | | | | | シルト | - | -73 | 0.093 | | | |
| | | - | -31 | 0.183 | | | | | | | - | -74 | 0.106 | | | |
| | 1 | | | | • • | | | | | I | | _ | | | · | |

_ _ 595 —

地質調査所月報(第39巻第9号)

付表 A-1(つづき1)

| 層 厚 | 些 歴 | 試 | 料 | 硫黄 | 珪藻 | 出現率 | % |
|-------|------------------|----|-----|--------|-----|-----|------|
| СШ | | 番 | 号 | 台 第 | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 |
| 30 | 灰褐色塊状シ | U- | -75 | 0.095 | | | |
| | | | -76 | 0.099 | | | |
| | 灰褐色細砂, シルト質の部 | - | -77 | 0.093 | | | |
| 15 | 分を含む | - | -78 | 0.105 | | | |
| | | | -79 | 0.100 | | | |
| | | - | -80 | 0.097 | 0. | 0. | 100. |
| | | | -81 | 0.101 | | | |
| 30 | 黄灰色塊状細 | _ | -83 | 0.032 | | | |
| | 1124 | _ | -84 | 0.000 | | | |
| | | _ | -85 | 0.097 | | | |
| 5 | 同上,やゝシルト質 | | -86 | 0.098 | | | |
| | | | -87 | 0.097 | | | |
| 12 | 黄火色細砂 | | -88 | 0.096 | | | |
| | 黄灰色シルト | _ | -89 | 0.092 | | | |
| 13 | 質細砂 炭質物含む | _ | -90 | 0.098 | | | |
| | | | -91 | 0.108 | | | |
| | | _ | -92 | 0.119 | | | |
| 00 | 井匠在地址加 | _ | -93 | 0.118 | | | |
| 20 | 寅庆巴瑰祆細 砂 | _ | -94 | 0.120 | | | |
| | | _ | -95 | 0.109 | | | |
| 7 | 黄灰色 | | -96 | 0.113 | | | |
| ····· | 現状シルト | - | -97 | 0.109 | | | |
| 5 | 黄灰色 シルト質細砂 | - | -98 | 0.102 | | | |
| | 黄灰色 細砂 | - | -99 | 0.100 | | | |
| 13 | 植片ラミナ状 に入る | 1 | 100 | 0.097 | 0. | 0. | 100. |
| | | -1 | .01 | 0.095 | | | |
| | | -1 | .02 | 0.094 | | | |
| 00 | 豊広ないいと | -1 | .03 | 0.092 | | | |
| 28 | 東灰色シルト 質細砂 | -1 | .04 | 0.099 | | | |
| | | -1 | .05 | 0.104 | | | |
| | | -1 | .06 | 0.100 | | | |
| | | -1 | .07 | 0.133 | | | |
| 17 | 黄灰色中粒砂 | -1 | .08 | 0.150 | | | |
| | | -1 | .09 | 0.111 | | | |
| | | -1 | .10 | 0.105 | | | |
| 15 | 黄灰色塊状細 | -1 | .11 | 0.096 | | | |
| | 199 19 | -1 | .12 | 0.087 | | | |
| | | -1 | .13 | 0.093 | | | |
| ~~~ | 黄灰色塊状シ | -1 | .14 | 0.090 | | | |
| 20 | ルト質細砂 | -1 | .15 | 0.088 | | | |
| | | -1 | .16 | 0.097 | | | |

| 層厚 | | 試 料 | 硫黄 | 黄 珪藻出現率 % | | | | | |
|----|---|-------|----------|-----------|-----|------|--|--|--|
| сш | 岩質 | 番号 | 含_量 % | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 | | | |
| | | U-117 | 0.092 | | | | | | |
| | | -118 | 0.089 | | | | | | |
| | | -119 | 0.094 | | | | | | |
| | | -120 | 0.106 | 0. | 0. | 100. | | | |
| | | -121 | 0.133 | | | | | | |
| | | -122 | 0.136 | | | | | | |
| | | -123 | 0.090 | | | | | | |
| 80 | 苦灰色伸伏 | -124 | 0.088 | | | | | | |
| 00 | 敬質シルト | -125 | 0.093 | | | | | | |
| | | -126 | 0.092 | | | | | | |
| | | -127 | 0.092 | | | | | | |
| | | -128 | 0.098 | | | | | | |
| | | -129 | 0.099 | | | | | | |
| | | -130 | 0.098 | | | | | | |
| | | -131 | 0.102 | | | | | | |
| | | -132 | 0.116 | | | | | | |
| | | -133 | 0.095 | | | | | | |
| 19 | 同上, やゝ灰 | -134 | 0.089 | | | | | | |
| 10 | 細木片含む | -135 | 0.084 | | | | | | |
| | | -136 | 0.094 | | | | | | |
| | | -137 | 0.089 | | | | | | |
| 20 | 淡褐,灰色塊 | -138 | 0.067 | | | | | | |
| 22 | 均質細砂 | -139 | 0.085 | | | | | | |
| | | -140 | 0.086 | 0. | 0. | 100. | | | |
| 5 | 灰褐色 シルト 細砂 に 細会 く の か よ | -141 | 0.090 | | | | | | |
| 5 | 中粒砂 | -142 | 0.107 | | | | | | |
| | | -143 | 0.102 | | | | | | |
| 00 | 广相在北上所 | -144 | 0.100 | | | | | | |
| 20 | 灰褐巴枯土貨 シルト | -145 | 0.101 | | | | | | |
| | 植庁まじり | -146 | 0.103 | | | | | | |
| 10 | 灰褐色塊状 | -147 | 0.102 | | | | | | |
| 10 | 中粒砂 | -148 | 0.098 | | | | | | |
| 5 | 灰褐色砂質 シルト | -149 | 0.105 | | | | | | |
| 5 | 灰褐色シルト 質細砂 | | 0.099 | | | | | | |
| 5 | 黄灰色細砂 | -151 | 0.093 | | | | | | |
| | | -152 | 0.099 | | | | | | |
| | | —153 | 0.098 | | | | | | |
| 30 | 灰褐色シルトと | -154 | 0.109 | | | | | | |
| | 細砂の細互層 | -155 | 0.100 | | | | | | |
| | | -156 | 0.094 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

茨城県中部, 瓜連丘陵の第四系泥質層の化学組成・化石珪藻から見た堆積環境(狛 ほか)

付表 A-1(つづき 2)

| 層 厚 | ய ஸ் | 試 料 | 硫量 | 珪藻 | 出現率 | % | 層 | 厚 | ш ## | 試 料 | 硫黄 | 珪藻 | 出現率 | % |
|-----|-------------------|-------|--------------------|-----|-----|------|---|------|-----------------------------|-------|-------------|-------------|-----|------|
| сш | 石貨 | 番号 | 己 重 % | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 | | cm | 石質 | 番 号 | さ 第 の | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 |
| 30 | 灰褐色シルトと 細砂の細互層 | U—157 | 0.095 | | | | | 10 | 黄褐色砂質 シルト | U | 0.108 | | | |
| 10 | 灰褐色細砂 | -158 | 0.098 | | | | | | | -199 | 0.104 | 1 | | |
| | | -159 | 0.096 | | | | | | | -200 | 0.108 | 0. | 0. | 100. |
| | | -160 | 0.098 | 0. | 0. | 100. | | 23 | 黄褐色シルト | -201 | 0.114 | | | |
| | | -161 | 0.090 | | | | | | | -202 | 0.113 | | | |
| | | | 0.094 | | | | | | | -203* | 0.111 | | | |
| | | -163 | 8 0.104 | | | | | | 褐色細砂 | -204 | 0.109 | | | |
| 50 | 灰褐色塊状 | -164 | 0.100 | | | | | 10 | (鉄銹で板状に なる) | -205 | 0.090 | | | |
| | 砂質シルト | -165 | 5 0.056 | | | | | | | -206 | 0 121 | | | • |
| | | -166 | 5 0.103 | | | | | | | -207 | 0.143 | | | |
| | | -167 | 7 0.100 | | | | | | | -208 | 0.125 | | | |
| | | -168 | 3 0.107 | | | | | | | -209 | 0.115 | | | |
| | | -169 | 9 0.103 | | | | | 45 | 灰褐色シルト | -210 | 0.116 | | | |
| | | -170 | 0.122 | | | | | | | -211 | 0.116 | | | |
| | | -17 | 1 0.129 | | | | | | | -212 | 2 0.118 | | | |
| | | -172 | 2 0.102 | | | | | | | -213 | 3 0.113 | | | |
| | | -173 | 3 0.110 | | | | | | | -214 | 4 0.123 | | | |
| | | -17 | 4 0.114 | | | | | | シルトとの漸{ | -21 | 5 0.119 | | | |
| 05 | 带相互构体 | -17 | 5 0.109 | | | | | 15 | 移部 | -210 | 6 0.144 | | | |
| 65 | 黄褐巴瑰状 シルト | 176 | 5 0.104 | | | | | | 和人民人田人 | -21 | 7 0.133 | | | |
| | | 17 | 7 U.U98 | | | | | 5 | 灰褐色細砂 | -21 | 3 0 064 | 0. | 0. | 100. |
| | | -17 | 0 0.102 | | | | | 400 | 5 灰褐色細砂 00 砂礫 | | | | | |
| | | | 9 0.090 0 0 000 | 0 | ٥ | 100 | | .400 | | T. | 1 0 007 | | | |
| | | -18 | 1 0 099 | 0. | 0. | 100. | | | | | 1 0.087 | | | |
| | | -18 | 2 0 131 | | | | | | | _ | 2 0.082 | | | |
| | | 10 | 0.101 | | | | | | | - | 3 0.084 | | | |
| | | 10 | 3 U.114 | | | | | | | | 4 0.092 | | | |
| 25 | 灰褐~黄褐色 | 10 | 4 0.122 5 0 190 | | | | | | | | 6 0.090 | | | |
| | жЩЦУ | | 6 0 123 | | | | | | | _ | 7 0 089 | | | |
| | | -18 | 7 0 100 | | | | | | | _ | 8 0.082 | . 0 | 0. | 100. |
| 5 | 業提合シルト | -19 | 9 0 100 | | | | | | | | 9 0.082 | | •• | 100. |
| J | 黄褐色ノルト | | 0.105 | | | | | | 苦灰色博状 | - 1 | 0 0.119 |) | | |
| 5 | 奥岡巴砂賀 シルト | -18 | 9 0.100 | | | | | 160 | シルト | - 1 | 1 0.092 | 2 | | |
| | | -19 | 0 0.101 | | | | | | | -1 | 2 0.087 | , | | |
| | | -19 | 0.109 |) | | | | | | -1 | 3 0.090 |) | | |
| | | -19 | 0.105 | i | | | | | | - 1 | 4 0.091 | | | |
| 35 | 黄褐色シルト | -19 | 0.083 | 3 | | | | | | - 1 | 5 0.084 | ł | | |
| | | -19 | 94 0.096 | 5 | | | | | | - 1 | 6 0.088 | 3 | | |
| | | -19 | 95 0.098 | 3 | | | | | | - 1 | 7 0.088 | 3 | | |
| | | -19 | 96 0.107 | 7 | | | | | | - 1 | 8 0.076 | 3 0. | 7.7 | 92.3 |
| | | | | | | | | | | - 1 | 9 0.076 | 3 | | |
| | | | | | | | _ | | | - 2 | 0.084 | 1 | | |

*厚さ3cm 分の試料

— 597 —

地質調查所月報(第39巻第9号)

付表 A-1(つづき 3)

| 層 厚 | <u>щ</u> <i>Б</i> г | 試 | 料 | 硫員 | 珪藻 | 出現率 | % | 層厚 | <u>ц</u> бб | 試 | 科硫 | 黄 | 珪藻 | 出現率 | % |
|-----|---------------------|----------|------|----------------|-----|----------|--|-----|-------------|-----|-------------------|-------------------|------|------|------|
| cm | 石 頁 | 番 | 号 | ^{己 単} | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 | % | 石〕〕 | 番 | 号 3 | ^重 % | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 |
| | | L- | - 21 | 0.139 | | | | | | L—6 | 2 0. | 122 | I | | |
| | | - | 22 | 0.129 | | | | | | —6 | 3 [.] 0. | . 125 | 4.0 | 8.0 | 88.0 |
| | | | 23 | 0.161 | | | | | | —6 | 40. | . 118 | | | |
| | | _ | 24 | 0.179 | | | | | | —6 | 50. | .130 | | | |
| | | _ | 25 | 0.198 | 0. | 0. | 100. | | | -6 | 60. | 225 | | | |
| | | _ | 26 | 0.189 | | | | 55 | 暗灰色塊状 | -6 | 70. | . 143 | | | |
| 160 | 黄灰色塊状 | _ | 27 | 0.201 | | | | | シルト | -6 | 80. | .142 | | | |
| | シルト | - | 28 | 0.154 | | | | | | -6 | 90. | . 139 | | | |
| | | | 29 | 0.160 | | | | | | 7 | 0 0. | 324 | | | |
| | | _ | 30 | 0.191 | | | | | | -7 | 1 0. | . 141 | | | |
| | | _ | 31 | 0.174 | | | | | | -7 | 20. | 156 | | | |
| | | | 32 | 0.151 | | | | | | -7 | 30. | . 129 | | | |
| | | | 33 | 0.159 | | | | 15 | 淡灰褐色火山灰 | -7 | 4 0. | . 280 | | | |
| | 黄灰~暗褐灰 | - | 34 | 0.190 | 0. | 3.7 | 96.3 | | Ŷ | -7 | 50. | . 585 | 2.7 | 13.5 | 83.8 |
| 25 | 巴現状 ジルト | _ | 35 | 0.183 | | | | | | -7 | 6 0. | .129 | 2.5 | 5.1 | 92.4 |
| ĺ | (暗灰色の生) | _ | 36 | 0.149 | | | | | | -7 | 70. | . 127 | | | |
| | b { | | 37 | 0.139 | | | | | | 7 | 8 Ó. | . 146 | | | |
| | | — | 38 | 0.143 | | | | ; | (暗緑色 | 7 | 90. | . 169 | | | |
| | | _ | 39 | 0.134 | | | | | パッチ含む) | -8 | 0 0. | . 179 | | | |
| | | _ | 40 | 0.143 | | | | | | 8 | 1 0. | . 299 | | | |
| | 暗灰~暗青灰 色シルト | _ | 41 | 0.095 | | | | | | -8 | 20. | . 660 | | | |
| 45 | | - | 42 | 0.079 | | | | | | -8 | 30. | . 307 | | | |
| | 生痕状のモヤ | | 43 | 0.079 | | | | | | -8 | 40. | . 330 | | | |
| | モヤした模様 を伴う | | 44 | 0.062 | | | | | | -8 | 5 0. | . 303 | 3.5 | 18.8 | 77.6 |
| | CH 2 | | 45 | 0.065 | 0. | 0. | 100. | 140 | 暗灰色塊状 | -8 | 60. | . 393 | | | • |
| | | _ | 46 | 0.054 | | | | | シルト | -8 | 70. | . 272 | | | |
| 5 | 褐色微細砂 | | 47 | 0.069 | | | | | | -8 | 80. | . 285 | | | |
| | | | 48 | 0.059 | | | | | | -8 | 90. | .261 | | | |
| | 暗灰色シルト | _ | 49 | 0.063 | | | | | | —9 | 0 0. | . 441 | | | |
| 20 | 褐色のパッチ | | 50 | 0 070 | | | | | (褐色がかる) { | -9 | 1 0. | . 249 | | | |
| | H J | _ | 51 | 0.098 | | | | | | -9 | 20. | . 208 | | | |
| | | | | | | | | | (白色薄層 { | -9 | 3 0. | . 369 | | | |
| 5 | 電灰 己 切員 シルト | | 52 | 0.076 | 0. | 0. | 100. | | 挾む) 、 | -9 | 40. | . 398 | | | |
| | まけがか た | | 53 | 0.160 | | | | | (微細砂薄層 { | -9 | 51. | . 404 | 13.7 | 2.0 | 84.3 |
| 15 | 冒味がかった | | 54 | 0.152 | | | | | 一揆也) | -9 | 60. | . 289 | 3.4 | 14.8 | 81.8 |
| | ト質細砂 | _ | 55 | 0.177 | 0. | 0. | 100. | | | -9 | 70. | . 449 | | | |
| | | | 56 | 0.091 | | | | | | -9 | 80. | . 334 | | | |
| | 暗灰色塊状 | _ | · 57 | 0.097 | | | | | | —9 | 90. | . 320 | | | |
| 20 | シルト | | - 58 | 0.108 | | | | | | -10 | 0 0. | . 229 | | | |
| | | _ | 59 | 0.113 | | | | • | | -10 | 1 0. | . 297 | | | |
| | **に相た しし | <u> </u> | 60 | 0 096 | | | | | (淡褐色火山) | -10 | 20. | . 303 | | | |
| 10 | 夜灰橋巴火山 灰 | | · 61 | 0.104 | | | | | 水(「)挾む) ` | -10 | 30. | . 264 | | | |
| | | | | | | <u>.</u> | <u>. </u> | | | | | | | | · |

| 付表 | A-1 | (つづき | 4) |
|----|-----|------|----|
| | | · - | |

| 層厚 | ப எ | 試 | 料 | 硫黄 | | 珪藻 | 出現率 | % |
|--------------------------|--|----|------|-------------------|-----|-----|------|------|
| % | 石〕〕 | 番 | 号 | 含重· % | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 | |
| 5 · | 黒灰色シルト | L- | -104 | 0.2 | 60 | 4.3 | 1.4 | 94.3 |
| | チョコレート | _ | -105 | 0.2 | 261 | | | |
| 20 | 色シルド | - | -106 | 0.2 | 227 | | | |
| 20 | (白色~オレン) | - | -107 | 0.2 | 263 | | | |
| | | - | -108 | 0.2 | 244 | | | |
| 5 | 黒色と褐色の 縞状シルト | - | -109 | 0.3 | 335 | | | |
| | | - | -110 | 0.2 | 248 | | | |
| | | - | -111 | 0.2 | 227 | | | |
| | | - | -112 | 0.2 | 287 | | | |
| | | - | -113 | 0.2 | 239 | | | |
| 50 | 陪灰角 面 炭質 | - | -114 | 0.3 | 305 | | | |
| 50 暗灰 シル (白1 多い | · ロバ巴里灰員 シルト | - | -115 | 0.2 | 269 | | | |
| | (白色斑点 { | - | -116 | 0.1 | 246 | 0. | 15.4 | 84.6 |
| | 多い) | - | -117 | 0.3 | 237 | | | |
| | | | -118 | 0. | 199 | | | |
| | | | 100 | 0.1 | 222 | | | |
| 9 | チョコレート 色シルト 9 白色火山匹(2) | | -120 | 0.1 | 228 | | | |
| | 薄層挾む | - | -121 | 0. | 209 | | | |
| 5 | 灰褐色シルト | - | -122 | 0. | 244 | | | |
| 5 | 灰黒~黒色 粘土 | - | -123 | 0. | 243 | | | |
| 5 | チョコレート 色シルト | - | -124 | 0. | 238 | | | |
| 3 | 暗灰色シルト | - | -125 | i 0. | 209 | | | |
| | | - | -126 | 5 0. | 187 | | | |
| | | - | -127 | 0. | 175 | | | |
| | | - | -128 | 3 0. | 171 | | | |
| 35 | 細砂薄層挾む{ | - | -129 | 0. | 122 | | | |
| | チョコレート 缶 | - | -130 | 0. | 102 | 0. | 0. | 100. |
| | 亜炭質シルト | - | -131 | 0. | 149 | | | |
| - | | - | -132 | 2 0. | 109 | | | |
| 6 | 黄灰色細砂, 平行ラミナ | - | -133 | 3 _. 0. | 152 | | | |

| 層厚 | | 試 料 | 硫黄 | 珪藻 | 出現率 | % |
|----|--|-------|---------|-----|-----|------|
| cm | 岩 質 | 番号 | 含量 % | 真塩性 | 中塩性 | 貧塩性 |
| | | L-134 | 0.264 | | L | |
| | | -135 | 0.249 | | | |
| | 青黒色部とチ | -136 | 0.220 | | | |
| | ョコレート色 部が薄い縞状 | -137 | 0.230 | | | |
| 40 | を呈する粘土 | -138 | 0.207 | | | |
| | g. A | -139 | 0.288 | | | |
| | | -140 | 0.285 | | | |
| | | -141 | 0.289 | | | |
| | | -142 | 0.216 | | | |
| | 青黒色部と灰 | -143 | 0.258 | | | |
| | 目目的が不見した。 | -144 | 0.377 | 6.3 | 6.3 | 87.5 |
| 35 | する 粘土質 シルト, | -145 | 0.283 | | | |
| | 植片多い | -146 | 0.222 | | | |
| | | -147 | 0.208 | | | |
| | | -148 | 0.197 | | | |
| | | -149 | 0.193 | | | |
| | | -150 | 0.192 | | | |
| | | -151 | 0.236 | | | |
| 35 | 暗灰~ 灰白色粘+質シルト | -152 | 0.228 | 0. | 3.1 | 96.9 |
| | | -153 | 0.221 | | | |
| | | -154 | 0.249 | | | |
| | | | 0.251 | | | |
| 15 | チョコレート 色 亜炭質シルト | -156 | 0.408 | | | |
| | | -157 | 1.051 | | | |
| | | -158 | 1.463 | 0. | 0. | 100. |
| 10 | 带褐灰色砂質 | -159 | 1.136 | | | |
| | シルト 植片多い | -160 | 0.375 | | | |
| 10 | 黄灰色細砂 | -161 | 0.388 | | | |
| | | -162 | 0.256 | 0. | 0. | 100. |
| 10 | 灰褐色粘土質 | -163 | 0.068 | | | |
| | シルト | -164 | 0.129 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |